

清水春樹先生ご退職に寄せて

学 長 島 田 燐 子

清水春樹先生がこの度定年によるご退職をされる。先生には現在、学長補佐として大学の管理運営について重責を担っていただいているので、大学にとっても私自身にとっても甚だ残念でならない。

先生を大学にお招きしたのは今から24年前の1984年で、当時の文京女子短期大学経営学科の情報処理担当の専任講師としてであった。まだまだコンピュータというより電算機といっていた大型コンピュータの時代であったと思うが、先生は大学卒業後、オリジン電機株式会社に勤務され生産会社の業務管理を経験されて、次長として電算化を成し遂げられたので、まさに経営学科でビジネスに直結したコンピュータを教えるのに最適と当時の大野学園顧問からの推挙であった。その際、先生の父上が高等学校長で弟様も高校教員で教育一家でもあるので、きっと良い教員になるとの確信に満ちた言葉も記憶している。まったくその通りで、文京女子大学開設後も助教授、教授と昇任され、一貫して学生の指導に熱心に取組まれ、知識・技能ばかりか社会常識を教えてくださいと共に一人ひとりの長所を良く伸ばして立派な卒業生を世に送ることに努めてくださった。

先生のゼミナールは結束が良く、先生をお父さんのように慕う学生が良く勉強して、学内外のゼミナール発表会や卒業論文でも好成績を収めていたのも印象深い。また、卒業後もゼミの同窓会がしばしば開かれ、100人以上のOGが集まり、社会的に活躍されている人が多いのも嬉しい限りである。

先生には1995年から情報教育研究センター長をお願いして、本学の情報教育の基盤整備に励んでくださり、2001年から2004年まで経営学部長としてふじみ野から本郷キャンパス移転・共学化という大きな問題のリーダーになっていただいた。また、総合研究所所長として学内の研究の振興や規定の整備等にもご尽力いただき感謝に堪えない。私ばかりか、大学の教職員すべてが先生のバランス感覚、公平性、良識に篤い信頼を置き、先生の助言を仰いできたと思う。この困難な時代に大学を運営するにあたって、今後もぜひとも先生にご指導を仰ぎたいと願いながら、先生のご健康をお祈りし感謝の言葉としたい。

(2007.11.9)